

経験者採用

入省者インタビュー vol.4 (行政)

主な経歴

- 前職は地元の建設会社に事務職員。官公庁に提出する契約書類の作成や下請け業者への支払い処理、経費精算や来客対応など幅広く経験
- 長く勤めてキャリアアップしたいという思いから転職

- 令和3年4月 中部地方整備局 採用

【現所属】三重河川国道事務所
占用調整課 係長



中村 真由子さん【採用2年目】

前職ではどのような仕事をしてきましたか？

短期大学を卒業後、デザイン会社に就職しましたが、1年で退職。地元の建設会社に事務職員として12年程勤めました。前職では、官公庁に提出する契約書類の作成や下請け業者への支払い処理、経費精算や来客対応など幅広く担当しました。

今はどんな仕事をしていますか？

現在は占用調整課で河川区域に工作物を設置したいという申請に対しての許認可の事務をしています。申請されるのは地方公共団体だけではなく民間企業も数多くいらっしゃるののでそういった方たちと打合せをして、より安全に河川が利用できるように頑張っています。

これまで人生経験を色々されている中で、なぜ転職しようと思われたのですか？

30歳を超えた頃から同年代が結婚して退職したという話をよく聞くようになりました。さて自分は将来どうなりたいかと考えた時、キャリアアップしたいと思ったのが転職のきっかけでした。

その中で中部地方整備局を選んでいただいたのはなぜですか？

もともと建設会社にいたということもあり、受注者という立場で中部地方整備局とは関りがありましたので、前職での経験が活かせるのではと考えたからです。他にも、河川や道路の復旧工事や南海トラフ大地震の備えなど、規模が大きい事業に直接携わってみたいという思いがありました。

入省前と実際の業務でギャップは？

事務官にも技術的な知識が必要になることです。現在の河川占用調整課では、占用許可申請書類の審査や境界確定事務、予算の管理などを行っています。河川法に基づいて審査を行いますが、土木に関する技術的な知識が無いと出来ないの、図面の読み方から勉強しています。

入省時の役職として係長、そのあたりでプレッシャーを抱えていることはありますか？

初めて係長という役職付きになったこともあり、プレッシャーは大きかったです。けれど、分からないことがあ

ったら聞きやすい環境でしたし、職場内も中途採用への理解があったことから助かっています。係長向けの研修やOJTなど教育システムも充実していますね。

職場の雰囲気・働きやすさはどうですか？

相談しやすい雰囲気ですね。困った時は皆で共有して、解決に向けて行動する体制になっています。休みも取りやすく、テレワークやフレックスタイム制度を活用している印象です。

前職の仕事内容は活かされていますか？

活かせる以前に勉強させて貰っている感じですが、今後、民間企業で培ってきた民間的な考え方を活かしていきたいと考えています。

給与・収入面、そのあたりは？

安定した収入は大きな魅力ですね。社会人採用者は、職歴が加算された等級からスタートします。

家での生活に変化はありましたか？

ずっと実家暮らしでしたが、最初の配属先が県外だったので初めて一人暮らしをしました。初めて一人暮らしを経験しましたが、客観的に自分の地元を見ることで新しい発見があったり、新しい土地でおいしいものを食べたりなど楽しく生活させてもらいました。

今回大きな人生の選択の一つするにあたって、ご家族には相談はしましたか？

相談しました。県外への異動があること・係長での採用ということで心配されましたが、「あなたが決めたことならサポートするよ」と応援してもらいました。

実際今回転職してみて、選択に後悔はありませんか？

後悔はないですね。初めての業務に四苦八苦していますが、周りの方から助けてもらっています。また、仕事の内容も非常にやりがいがあると感じています。

中部地方整備局でのこれまでの仕事の中で、印象に残っている仕事はありますか？

初めて担当する河川を見にいった時、規模の大きさや地域の基盤を支える業務だという実感がして印象に残っています。プレッシャーはありますが、その分やりがいも大きいです。

今後何か、中部地方整備局で挑戦してみたいこと・携わってみたい仕事はありますか？

現在携わっている仕事なのですが、年単位で動いている大きな案件があるので、最後まで携わりたいと思っています。

今、中部地方整備局を受験しようと思われている方に対してアドバイスはありますか？

中部地整は男女で仕事の違いも無いので、キャリアアップしたい人におすすめです。

私は34歳で入局しましたが、今回の転職でチャレンジに遅すぎることは無いと感じましたので、同年代の方の踏み出すきっかけになれば嬉しいです。

本日はお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。ありがとうございました。



聞き手: 人事課企画係長 松宮

インタビュー R4.6.1

